

アフタートーク

以下は当初作品紹介ページ用のために書き始めました各Phase終了直後の彼女のたわいもない会話です。

幸か不幸かその結果、本来の目的と文字数を大きく逸脱したものとなってしまいましたためこのような形で付属させていただきます。

人によっては作品のイメージひいては光ちゃん萌ちゃん両名に抱くイメージを大幅に損なう可能性を孕んでおります。しかし作品外でもなお存在し続ける彼女の姿を描いたつもりです。

本編を楽しんでいただいただけにとどまらず、さらにお付き合いしていただけると作者冥利につきます。

ちなみに「」が光ちゃんで『』が萌ちゃんです。ここまで一読してくださり感謝いたします。それではお楽しみください。

index

(クリックするとジャンプできるはずです(できなかつたらごめんなさい))

[Phase1](#)

[Phase2](#)

[Phase3](#)

[Terminal Phase](#)

Phase1:パフェたべたい

(ワンコイン貢ぎマゾ～アフタートーク～)

「いや～ちょろいちょろい～♪何食べにいく？もえもえ～？」

『それじゃ萌パフェ食べたいですぅ～♥』

「ちょっとお高くてめっちゃうまいとこあるけどそこいく？」

『どんなパフェなんですぅ～？』

「うーん三種類あって一つチョコ。これがいつでも食べられるの。」

『あの二種類はなんなんですかあ～？』

「あとは季節限定特別メニュー♪だから行くまでなにがあるかお楽しみ♪」

『うわあ～♪楽しみです～♪』

「どうせうちらのお金じゃないしばーっとつかっしゃお♪」

『そうですねえ～♥優しいお兄さんに感謝しないといけませんねえ～♥』

「いやいや感謝するのはまだはやいっしょwあいつまだ絞りがいありそうだしw」

『ああ～それで"サービス"してあげたんですかあ～？』

「そう♪じゃなきゃ耳舐め手コキとかキモいっしょw？」

『う～んそうですねえ～耳舐めは確かにてーこうありますけど手コキ結構好きですよ～？』

「マジ？キモいじゃんあれシコシコすんのとかwしかも顔見るとさあ～だいたいキモい顔してるし」

『それがかわいいじゃないですかあ～♥』

「え？ちんこが？顔が？どっち？」

『両方♪』

「え…マ？」

『マジです♪』

「ごめんもえもえうちじゃ分かってあげられそうにないわ～」

『えーかわいいじゃないですかあ～♥というより光ちゃんもお兄さんに言ってたじゃないですかあ～♥』

「あれはああいうと大体喜ぶじゃん？ってかさそういうとこもキモくない？あれ？」

『だからそこがかわいいんじゃないですかあ～♥』

「いやいやキモいっしょw」

『キモくないですよお～♥あんまりキモいっていうとお兄さんかわいそうですよお～』

「えー今あいつないしいいじゃん！許してよお～」

『じゃあパフェ3つで許してあげます♥』

「関係ないじゃん！ってか3つもいくの！？太るよ！？」

『なんのことですかあ～♥』

「あー全部この乳にいくのかあ～このでかちちめえ～！！」

『んんついきなり触っちゃダメですぅ～光ちゃんもお～パフェいっぱい食べたらおつきくなるかもしませんよ♥』

「うっさい！！余計なお世話！中庸！！うちはこれで満足してんの！！」

『ふふふ』

「笑うなーーー」

Phase2:バラの名は

(チックタックノータッチ射精募金～アフタートーク～)

「すっごいよもえもえ～♪見てこの札束～♪さっすがにあいつに感謝しなきゃだね～キモかったけど」

『そうですねえ♥あれできるんじゃないですかあ～？』

「あれ？」

『扇子みたいにパタパタってできそうじゃないですかあ？』

「よゆーよゆーほれ♪」

『ああん♥心地いいですぅ～♥』

「ほれほれ～よいではないか～♪よいではないか～♪」

『ユキチさんダメですぅ～♥』

「え？今ユキチじゃなくない？」

『あれ違うんですかあ～？ほ

「れ今エイイチっしょ？最近変わったじゃん♪ほら♪』

『ほんとだあ～♥知らないおじさんになってますぅ～♥』

「マ？」

『マジです♪』

「だから赤点ぎりぎりなんだよもえもえ～」

『だって光ちゃんがなんとかしてくれるじゃないですかあ～♥』

「何とかする身にもなってよお～毎回カンペ作んのめんどーなんだよ～？」

『でも光ちゃん萌別に赤点でもいいんですけど～』

「ダメ目付けられるじゃん！」

『でも萌だけですよ？』

「もえもえいないと今日みたいなことできないし...」

『へえ～それだけですか～？別にあれ毎日やってるわけじゃないじゃないですかあ～♥』

「もえもえうちに何か言わせたいでしょ？」

『なんのことですかあ～♥』

「.....」

『ふふ♥』

「.....うち時々思うんだけどもえもえ実は勉強できるっしょ？」

『そんなことないですよお～♥しいて言うなら～♥』

「？」

『女の勘です♪』

「...うちも女なんだけど」

『じゃより女性ってことで♥』

「わけわかんないよ！ジェンダーフリーで言ってよ！！」

『萌難しい言葉わかんないですぅ～♥』

「はあ...うち今日のもえもえ嫌い」

『ええ～光ちゃんすねないでくださいよお～♥』

「やだ口ききたくない！」

『せっかくいいっぱい募金してもらったんですからあ～ケーキ屋さん行きましょうよお～♥』

「ぬ～！！！」

『あそここのピンクのケーキに夢中だったじゃないですかあ～♥』

「ぬ～！！」

『マカロンみたいですっごいかわいかつたじゃないですかあ～♥』

「ん～！」

『ピンクのケーキ食べましょうよお～♥』

「イスパハインでしょ！！うるさいなあ～食べるよ！！」

『やったあ～♥そんな名前だったんですねえ～♥あのケーキ♥』

「うちあの時何度も言ったと思うんだけど少しは覚えてよ～もえもえ～」

『でも光ちゃんがこうして教えてくれるじゃないですかあ～♥』

「またそういうこと……」

『感謝してます♥光ちゃん♥』

「…ずるい」

Phase3：ロックンロールケーキ

(A・T・M 〈ALL TAKEN MASO〉～アフタートーク～)

「はあいバカマソお財布お兄さん♪早く受け取りに行く行く～♪」

『萌たちここで待ってますから早くしてくださいね♥』

「…」

『…』

「『…』」

「……ってかさめっちゃスースー気にならない？」

『…しますねえ～♥』

「あれにあげちゃったもんね～」

『もしかして光ちゃんこ一かいしてます？』

「いやいやあれ履く方が無理っしょ」

『くすw光ちゃんまだいいじゃないですかあ～♥萌のなんでお兄さんの精液いっぱいについてたんですよお～♥』

「うちだってあのバカの唾液いっぱいついてたもーんきもーい」

「ってかさ！ってかさ！あのバカあの飴全部食べきてんのもっとキモくない？」

『くふふw確かにキモいのは賛成しますけどお～精子塗りたくって食べろっていったの光ちゃんじゃないですかあ～♥』

「マ？」

『マジです♪』

「あーマジだあ... そうだったー」

『珍しいですね♥ 萌の方が覚えてるなんて♥』

「たまたまだよ♪ たまたま♪」

『そうですかあ～？』

「そう♪」

『でもついさっきのことですよ？』

「うっさいなあーしつこいもえもえうちきらーい」

『ごめんなさあい♥ 心配したんですよ～♥』

「心配？」

『こーかいしてるんじゃないかなあって♥』

「？いやだからしてな... い...」

「...」

「...」

「ああ... うーん...」

『どうなんですかあ～？』

「うーん... まあ行けば分かるっしょ♪」

『なんですかあ～それえ～？ ♥ 答えになってませんよお～♥』

「えーうちちゃんと答えたんですけどー♪」

『萌に分かるように話してくださいよお～♥』

「それも行けば分かるってことだよ♪ もえもえ♪」

『はぐらかされた気がしますう～♥』

「あっ♪ お財布が帰ってきたきた～♪」

『ほんとだ♥ ちゃんと戻ってきてエラ～イですねえ♥』

「早速借りてきたものちょうどいいお兄さん♥」

『くださいです♥ お兄さん♥』

「うちらをノーパンで待たせてさらにこれ以上待たせないの♪」

『そうですよお～♥ ヒドイじゃないですかあ～♥』

「はい毎度あり～頑張って返すんだよー♪」

『ファイトです♥ お兄さん♥』

『あとお～お兄さん♥ 最後に一つ忘れてませんかあ～♥』

「確かに～♥ いつものあれ言わせてあげる♥」

「『さんはい♥』」

「『どういたしまして♥またの募金お待ちしています♥』」

Terminal Phase: HAPPY～die Zwei Wandervogeln～

(Lost one～アフタートーク～)

「あーあ結局ただ働きとかサイアー」

『ほんとお兄さん最後までほんと気持ち悪かったですぅ～♥』

「もえもえ今日すごい拒否ってたね～さすがのあいつも結構キテたよ～？」

『だってえ～前から思ってたんですけど萌抱きつかれる率たかくないですかあ～♥』

「まあうちよりもえもえの方が優しくしてくれそそうってのはわかる♪あと抱き心地いいし♪」

『ああん♥光ちゃんダメですぅ♥』

「ほれほれ～♥もえもえはあ～うちにもさっきみたいに舌打ちするのかにや～？」

『するわけないじゃないですかあ～♥でもお～恥ずかしいからやめてくださいよお～♥』

「そういわれるとやりたくなっちゃうんだよねえ～♥」

『きやつ♥そこお～♥ダメえ～♥』

「そこってどこかな～？ここかな～？」

『そこはもっとダメですぅ～♥』

「くっ…ふふあははははははははは」

『ふつ…ふふふふふ』

「あーおもしろかったw」

『萌はおもしろくないですよお～♥光ちゃんいつもより激しくないですかあ～？♥』

「えーそう？でも笑ってたじゃーんw」

『光ちゃんが笑うからですぅ～♥』

「イミわかんなーいそれ～♥」

『これからどうします光ちゃん♥』

「お腹空いたしなんか食べよ～お金はいっぱいあるからね♪」

『たしかに♪』

「なに食べる？」

『んー♥あつ♥萌一つだけ思いつきましたあ～♥』

「ふふ♪うちも♪じゃあせーので言ってみよっか♪」

「『せーの』」

「『クレープ♥』」

『マ？』

「マジですか♪」

『「あははははははは」』

「あはははどう？うちもえもえの真似うまくない？」

『もう♥全然ちがいますよお～♥萌そんなんじゃありません～♥』

「うちだってそんなムカつく感じじゃありません～♥」

『結構似てると思いますよお～♥』

「それどういう意味～？！」

『そのままの意味です♥』

「言ったなあ～♥」

『言ってないですよお～♥』

「そんなこと言うのはこの乳か♪」

『やあん♥おっぱい関係ありませんよお～♥』

「いーや生意気なおっぱいしてるから生意気になるんですう～♥」

『じゃあ光ちゃんはもっと大きくないとダメですねえ～♥』

「ぬー！！！」

『あはははは光ちゃん♥怒るか揉むかどっちにしてくださいよお～♥その顔面白いですう～♥』

「ぬー！！！もえもえが泣いて許し請うまで揉むー！」

『ダメですう～その顔じゃ笑っちゃいますよお～♥』

「じゃダメ♪揉む！」

『クレープ食べましょうよお～♥せっかく目の前にあるんですからあ～♥』

「揉みながら食べる！！」

『クリーム制服についちゃうじゃないですかあ～♥』

「心配するとここ！？」

『あつ♥もとに戻りましたね♪』

「あーしまったあ～」

『じゃあクレープ♪食べましょ？』

「はいはいわかりましたよーだ♪」

『あの～光ちゃん萌2つ頼んでいいですか？』

「またそんな...食べると太るよー」

『違います♥』

「？...あーうんそうだねえ～」

『ダメですか？』

「うん。ダメ。」

『ダメですか。』

「そりゃそうっしょ♪」

『ですよね～♪』

「...」

『...』

「『...』」

『じゃあ3つとも萌のだったらいいいですかあ～？』

「くっｗうちの分まで勝手に食べるなー！！」

「『くす♪』」

「『ふふふあははははwww』」

『じゃあ2つで我慢するんでえ～もう一つ頼んじゃダメですか？光ちゃん♥』

「うーん♪ダメ♥」

『えー♥なんでですかあ～♥』

「ふふ♪2つ目は二人で半分こ♪一緒に食べてあげよ♪」

『くすっ♪そーですね♪じゃあフルーツとクリームとチョコもマシマシにしていいですか？』

「ええ～そんな食べんの～うちそんな食べられないんだけど～」

『萌が食べるから大丈夫です♥』

「半分こじゃないじゃん！！」

『細かいこと気にしちゃダメですよお～光ちゃん♥』

「ぬーどうしてそんなに食べててこれがこれでそこがそんだけなのー！！」

『ふふ♥なんでですかねえ～♥』

「...もえもえうちのことバカにしてるっしょ？」

『そんなことないですよー♥でもお～♥』

「でも？」

『子供みたいでかわいいなーって♥』

「やっぱりバカにしてるじゃん！！」

『褒めてるじゃないですかあ～♥』

「うちの望む褒められ方じゃない！！」

『わがままですねえ～♥』

「撫でるなー！！」

『おっぱいのお返しです♥』

「あーもう！揉むんじゃなかつたー！」

『萌ばつか揉まれてふこーへいですからなでなでさせてくださいよお～♥』

「ふこーへいなおっぱいが悪い！！」

『はいはいふこーへいですねえ～♥』

「うわー受け流されたーｗ」

『だって光ちゃんの髪サラサラでいい匂いするんですもん♥』

「もえもえだってつやつやでめっちゃいい匂いするじゃん♥うち大好きだよ♪」

『ふふ♥じゃあお互い様ですねえ～♪』

「ふふ♪お互い様だね～♪」

「『ねー♪』」

Fin

お○けの○まけのおま○

こんなところまでご覧いただきありがとうございます。

イースターエッグといいますか隠し要素っていいですよね。

わくわくして僕は大好きです。

なので自分でもやります。

最後の最後のおまけとして作中でどうしても気がかりだった箇所を補完する閑話を紛れ込ませておきます。

気になった箇所というのは

「Phase2でなぜ男が60万円以上引き出していたのか？」

です。

この箇所が脚本作成時ら収録編集を経て今に至るまで奥歯に挟まるほうれん草並に気がかりでしたのでこの場をお借りしてすっきりさせておきます。

気になる方お暇な方大したお話ではないですが今しばらくお付き合いいだきましたら光栄恐縮痛み入ります。

(※カッコの見方は上のアフタートークと変わりません。)

～ATM前にて～

「はあい到着♪お兄さんにはいくら引き下ろしてもらおつかなあ～？」

『いくらにしましょうか？光ちゃん？』

「二度手間だと面倒だし限度額いっぱいでっしょ？」

『光ちゃーんダメですよ～♥お兄さんびっくりしてますよお～♥』

<小声で>

「でもうちらが何万円欲しいって言ったら意味ないじゃん？それにあれだとうちらもいくらになるかわからないしね～」

『そうですねえ～とありあえず限度額いっぱいまで引き出してもらえるようにおねだりしましょうか♥』

<ここまで小声>

「ってことでえ～」

「限度額いっぱい引き出して♥お兄さん♥」

『限度額まで引き出してくださいよお～♥お兄さん♥』

『そしたら萌たち～もっとお兄さんに募金してもらうように頑張っちゃいますぅ～♥』

「うちらお兄さんにいっぱい募金してもらえるように一生懸命頑張るからお兄さんも誠意見せてほしいなあ～♥」

『この前の耳舐め手コキ覚えてますかあ～？シコシコ♥ペロペロ♥気持ちよかったですかあ～？』

「今度はどんなことされちゃうのかなあ～？JK2人にどこまでめちゃくちゃにされちゃうのかなあ～？」

『とありあえず下ろすだけですから♥限度額まで下ろしてくださいよお～♥』

「下ろしてくれたらあ～うちらの靴下あげよっかなあ～？」

『萌たちが今日一日履いた靴下♥少し恥ずかしいですけどお～やさしいお兄さんならあげてもいいですよお～♥』

「JKの生の靴下を今なら手数料払うだけで手に入れることができるんだよお～♥」

『しかもお兄さんの目の前でぬぎぬぎ♥しちゃいます♥』

「だからそれくらいできるよね？お兄さん♥」

『お願いしますね♥お兄さん♥』

「『ちゅ♥』」

「ほいじゃうちらここで待ってるからよろしくね♥」

『萌たちとの約束ですよ♥守ってくださいね♥お兄さん♥』

Fin

ここまでお読みくださりありがとうございます。

読んでいただいた皆さんへのお礼になるかは分かりませんがサークル用メールアドレスをおいておきます。

もしご意見ご感想おしこり報告罵詈雑言がありましたらこちらにお送りください。

btbtbtbtbtbtbtbtbt@gmail.com

そういうえばついで今まで大っぴらに公開してませんが僕の一人言製造機と化してるツイ垢は下になります。

[@butabutabeta](https://twitter.com/@butabutabeta)

正直平日はほとんど見れませんしじゃあ休日も見てるかというとそうでもない存在意義が怪しいアカウントです。

そのうえいまいちたまにつぶやいてもおもしろくもなく作品とは無関係なことをつらづら述べてるだけですのでフォローしても鼻の下にある筋くらいに無益ですのでご承知ください。

それではこれでほんとのホントに終わりです。

また次回作でお会いしましょう。

僕からは以上

あつたかくして寝ろよ～